

・どうやって、市に市民の皆さんの  
思いや意見を伝えているか

→ 課題や問題点

<b>市民 ↓ 行政</b>	市職員に直接意見を述べる	市長への手紙	町内会議で出た要望や提言は嘱託員や地元議員を通じて市に上申する。	市民公募に応募して参画	仕事や普段の生活で把握したことを担当部署に伝える	<b>縦割りの弊害</b>	個別に意見や提案してもタテ割組織で、ヨコ連携の改善が必要と思う	行政内で縦割り感覚の強いところもあり、もっと横通しして欲しい

<b>行政 ↓ 市民</b>	パブリックコメント	出前講座	<b>会議</b>	市の会議を土日や夜に開催し、市民が参加しやすいように	会議等の集約化	行政主催の説明会に出席しているが殆どが決定済に近く時間的に無理な状況下	各種会議で年齢差での物の考え方の相違

<b>(間接的) 他機関</b>	報道機関に投稿	<b>提案に対する回答</b>	クレームと意見との見分けのライン	殆どが回答が得られない	返答までの時間がかかりすぎる	クレーマー、モンスターペアレントについて、考えを整理すること	福祉面での提案をしているが、経済情勢や予算面からトータルは協賛。実行の進捗がない

<b>(情報共有) 公開</b>	全面的な情報開示をしない	情報提供する側の都合で情報提供している	議会の動画	<b>意見のす い上げ</b>	意見を述べても思いが伝わらない	広報モニターの活用

・どのような場面で、まちづくりに  
参加していますか

→ 課題や問題点

<b>行政主導</b>	市の審議会や委員会に参加	昨年まで環境美化監視員を4年間やって今年は若い人にバトンタッチした	市主催事業への参画(NPOとして)	<b>他人事 に し な い</b>	高齢化対策でも考え方を工夫してもらえれば良いと思うが(敬老会、長寿祭)	<b>目的・理念 の共有化</b>	協議会として行政とコンタクトを取っているがポイントがずれる場合がある	まちづくり協議会で他の地区との考え方が違い、やりにくい	まちづくり協議会のあり方と市との協働

<b>市民主導</b>	<b>地域活動 へ参加</b>	吉田南小への支援活動(学校田等)で連携できるようになったので他にもやれたら	<b>自己負担(参加団体)で要請にすべて対応できない</b>	<b>まちづくりは</b>	具体的に何をやるかビジョンが見えない	家庭教育、地域教育に取り組む施策があつて欲しい	大人のマナーの欠如が大きい	軸がぶれな いまちづくり	めざすものがはっきりしていないとい けない

<b>行政参加し やすい仕組 みづくり</b>	市民参画要望されている内容がジャンル毎に整理されたら分かりやすい	今まで行政に参加しなかった人への行政参加の仕組みづくり	平日の参加は難しい	市民総参加

・市と連携・協力してこんな  
活動をしているよ

→ 課題や問題点

<b>行政主催</b>	市主催事業へのボランティア参加	NPO団体として「ひとづくり」「まちづくり」事業実施	トキめき新潟国体、トキめき新潟大会の燕市開催支援事業を協働で実施	トキめき新潟国体へボランティアとして参加	<b>人材不足</b>	ボランティアスタッフの不足	活動時間に縛られることが多い	<b>資金不足</b>	事業資金調達不足

<b>市民主導</b>	地域の方との健康づくり事業	<b>情報提供</b>	NPO等の情報交換交流の場が少ない	市からの情報提供が少ない(助成金など)	市や学校等が希望するボランティアの内容が見えにくい	福祉面での協力要請に応じ ている。但し手 際は上手いと は言えない (組織面)	学校区毎のボランティアチームを考えたらまとまりやすい

<b>意見の吸い上げ</b>	ワークショップの機会を増やす	総合計画の柱(項目)に沿った情報交換、話し合いの場を設ける
<b>提案に対する回答</b>	市民からの提案・意見の内容、それに対する回答を掲示していく	提案でも実行困難なものもあり、結果としてダメなとき、その場合の説明をしてほしい
<b>会議</b>	審議会・委員会の夜間または休日開催	会議は夜や土日のみにする

<b>情報共有(公開請求)</b>	燕市の行政情報、人づくり情報等を携帯に提供する	インターネットによる情報公開	情報提供部署→市民(子供、お年寄り)という風に変える	ホームページの充実化
<b>情報交換情報提供</b>	市議会等の動画配信(議事録公開までに3~4か月)	情報発信、交流の場としての(仮)市民活動支援センターの設置		

<b>まちづくり人づくりビジョン</b>	まちづくり、人づくりのため具体的施策ビジョンを示す	
<b>目的・理念の共有化</b>	まちづくり協議会の目的、理念、役割を全協議会で共有する	
<b>他人事しない</b>	良いまちづくりに市民が一人称で取り組む	市職員の地域活動への積極的参加

<b>縦割りの弊害</b>	
市役所内の改革(最初に対応した者が最後まで)	市民→行政への意見窓口の一本化

情報伝達の仕組作り

わかりやすい情報交換の仕組み作り(市民と行政双方向)

<b>行政参加しやすい仕組み</b>	市民参画のための施策内容がジャンル別に整理されていると協力しやすい	いろいろなどころで行っている活動を整理してまとめる	携帯等を活用したボランティアネットワーク作り
<b>人材不足</b>	ボランティアセンター(仮称)の設置	リーダー、コーディネーターの養成講座	人材バンク
<b>資金不足</b>	市の支援体制の確立(補助金等)		

官⇄民のキャッチボール

人・物・金の仕組作り

